



帯広市では、社会総掛かりで子どもの学びと育ちを支える仕組みづくりを進めています。コミュニティ・スクール (CS) は、学校・家庭・地域が目標を共有して、ともに子どもを育てていく取組です。

森の里小地区のコーディネーターの取組を紹介します

緑園中学校・開西小学校・森の里小学校では、3校合同で令和5年12月25日(月)にもちつき会を行いました。中心となって地域の方と学校とをつなぐ役割 (コーディネーター) を担ったのが森の里小地区の村上早苗さんです。準備から当日実施に至るまで、村上さんの活躍をインタビューさせていただきました。

Q.三校合同もちつき会はどのような催しですか？

緑園中学校区にある三校の子どもたちに、今はなかなか家庭ですることのないもちつきを体験してもらうイベントです。

地域にある様々なボランティア団体の協力により、コロナ以前にはなかった初めての試みとなりました。



コーディネーターの動き

<10月末>

○学校からイベント開催の相談を受ける。

<11月上旬>

○各ボランティア団体へ声かけをする。
○団体の代表を集め、イベントの概要や参加してほしい人数、お手伝いの内容を説明する。
○学校地域連携課に交付金の相談をする。

<12月上旬>

○各団体に、お手伝いをしてくれる人の募集通知を配布する。

<12月中旬>

○交付金を申請し承認される。
○交付金を受け取る。
○餅米等の必要物品を発注する。

<12月下旬>

○当日のタイムスケジュール、ボランティアの配置、必要備品に関する打ち合わせ。

<当日>

9時…地域ボランティア集合、準備。
10時…子どもたち集合、もちつき会開始。
11時半…もちつき会終了。片付け。
12時半…完全撤収。

<後日>

○交付金の報告書を提出する。

Q.コーディネーター、学校、地域の方はどのような役割を担いましたか？



コーディネーターは、地域の方への呼びかけや学校との調整、当日必要なものの準備、交付金の申請を行いました。団体の代表の方を中心に、何度も打ち合わせをしながら準備を進めました。

学校は、子どもたちへの呼びかけやイベント保険の手続き、場所の準備を行いました。

地域の方には、主に当日の運営をしてもらいました。

Q.地域の方にはどのように協力をお願いしましたか？

まず、代表を務めている生涯学習推進委員会や放課後子ども広場の団体のメンバーに声をかけました。

その他に、町内会の研修会の場を借りてお話ししたり、老人会の代表にも声をかけました。

子どもたちの喜び顔を想像し、皆さん快く引き受けてくれました。



Q.当日の様子はいかがでしたか？

杵と臼で餅をつく経験がない子が多く、とても楽しそうにしていました。また、あんこやきなこをつけたお餅をおいしそうに食べていました。地域の方の中には、子どもよりも張り切って餅をついてくれた方もいて、終わった後に「またやろう」と言ってくれました。初めての試みで大変でしたが、やってよかったと思います。

今回森の里小地区で実施した事業で活用した「こども学校応援地域交付金」は、地域の様々なボランティア団体が協力して、子どもたちのために行う活動を支援するものです。詳しくは下記問い合わせ先、もしくは帯広市HPをご覧ください。



【発行・問合せ先】

帯広市教育委員会 学校教育部 教育総務室 学校地域連携課

TEL : 0155-65-4162

Email : school_cooperation@city.obihiro.hokkaido.jp

帯広市 コミュニティ・スクール

検索



(令和6年2月29日発行)

